



# 社会科

公開授業②

-Challenge to Creative Lessons-

CCL

「自己の関与」と「他者への責任」の認識を促す

第6学年 安松 洋佳



## 「直接体験」が効果的なのは分かっているけれど…

「3・4年生の社会科は地域教材を扱うから、『自分のこと』として考えさせやすいけれど、5・6年ではどうだろうか」という声を聞くことがあります。

5・6年生の社会科学習でも（だからこそ）、子どもたちが自分と社会との接点を見だし、自分自身を社会のできごとと関連づけて捉えようとする思考法を育成したいですね。

このような「社会形成に参画する資質や能力」の育成を意図した社会科の学習内容、学習方法の開発改善については、社会的体験を組み入れた学習が有効な方法として研究・実践され、効果を上げています。しかし、本格的な社会体験までを組み込んだ単元は、その開発と実施に係る時間・労力、安全性の留保等の「コスト」がかかってしまいます。また、体験・活動すること自体が目的となってしまうと「社会科」の学習から離れていってしまう恐れもあります。

## 多くのすぐれた実践から - 「視点の転換」を促す指導 -

そのような困難を克服する方法として、たとえば山本（2004）は、問題場면을意図的に起こして、役割演技によって人物の立場を共感的に理解し、社会事象の構造と意志決定を体感させる「ロールプレイング・シミュレーション」を提唱しています<sup>1)</sup>。また、谷口・五十嵐（2008）は、多文化共生社会は「多様な価値観の基盤を持つ個人や集団が論理的に交渉し合意に達することで形成する社会」であるとともに「個人も多様な価値観・所属意識を同時に内在させ、ジレンマを起こしているような社会」でもあるとして、「教室内で多角的な視点が生まれる」ことを重視した歴史授業を提案しています<sup>2)</sup>。

さらに、井門（2008）らは、第6学年における政治の学習について、「学習者がある役割を担うことによって、考察対象を理解し、問題を解決」させる学習方法として「役割体験学習論」を提唱するとともに「役割体験の4類型」を提示し、社会事象を疑似体験することの重要性・有効性を説いています<sup>3)</sup>。

これらの論に共通することとして、複数の、あるいは異なる視点から同時に社会事象を見つめることが重要な思考法として扱われていることが挙げられます。つまり、教室における学習でも、子どもの「視点」を「転換」することが有効な方法として示されているのです。

## 「自分のこと」だけど「自分だけのことじゃない」 - 「他者への責任」の認識を促す指導 -

また、棚橋（2007）は、「当事者として社会を見ていくことにより、（中略）自分の問題として切実性が増し、それ故に、子ども自身にとって学ぶ価値が高くなり、学習意欲を高めることになる」としています。しかし一方で「自分の所属する社会のみを分かる授業で構成されるその社会についての知識は、転移性がない」として、「子ども自身に価値判断の機会が与えられない」「当事者の視点からのみ事象を見させることにより、事象を対象化してみる力と習慣をつけることが難しくなる」とも指摘しています<sup>4)</sup>。

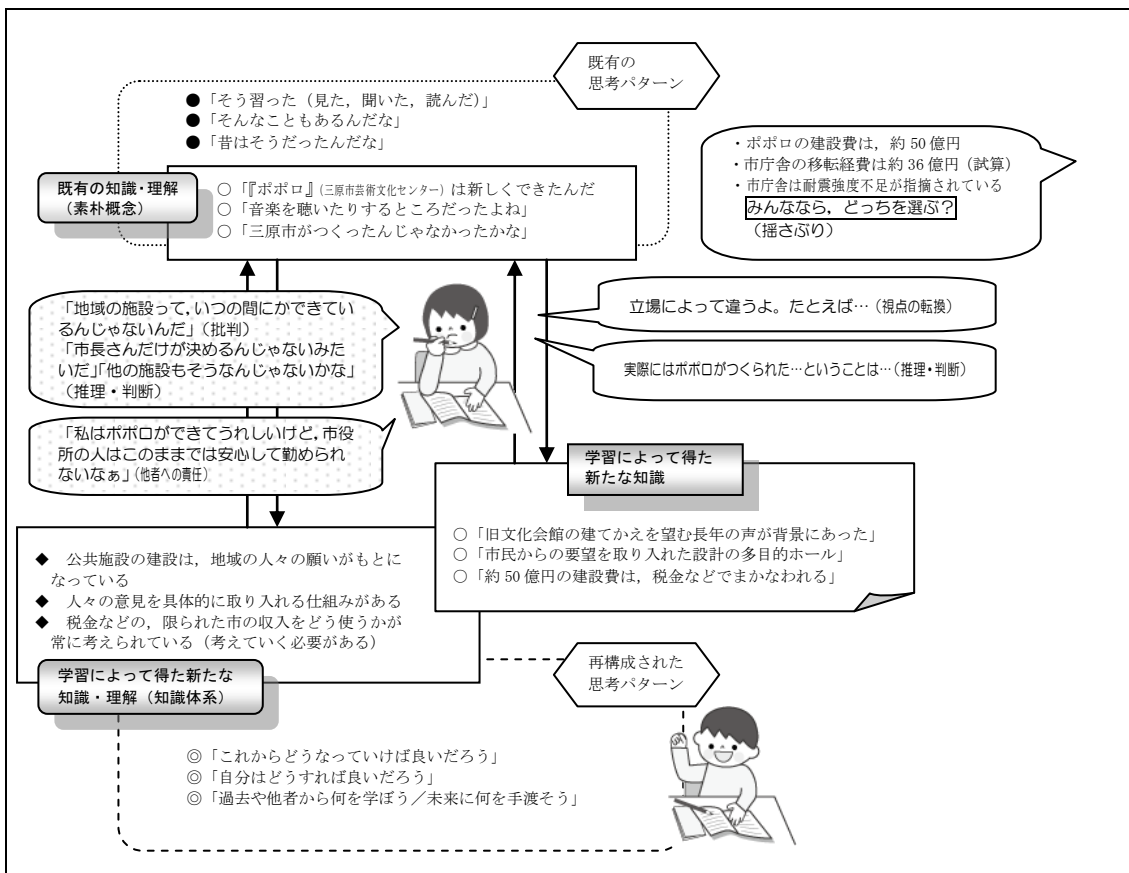
このことは、「当事者として社会をみる」ときに、「視点の転換」を通して得た第二・第三の立場からみると、自分の意志決定がどのような影響を及ぼしているのか考えること、つまり「他者への責任」を認識することである程度回避できると考えています。

**「こうなっちゃうんだけど、どう考える？」 - 「揺さぶり」による不調和を解消する「推理・判断」「批判」 -**

「視点の転換」「他者への責任の認識」を促すこと、これは手段であって目的ではありません。最終的には社会に対する子どもたちの知識や理解の組み立てが新しくなったり、社会に対する考え方のパターン自体がグレードアップしたりすることが大切です、そのために、学習の中で、子どもたちを少しだけ動揺させ（「揺さぶり」）ます。すると、子どもたちは次のような考えによって揺れを収めようとすると考えました。

推理・判断	「揺さぶり」によって発生した不調和を解消するために、自分なりの新たな論理を構築する
批判	「揺さぶり」を収束することによって認知された新たな知識・理解をもとに、これまでの自分の考え方を批判的に振り返る

「視点の転換」「他者への責任の認識」を促した上で、子どもたちの考えを「揺さぶる」ことで、子どもたちの理解や思考パターンが変わっていく過程を、実践に基づいて図にしてみました。



このような授業を実現しようと取り組んでいます。皆様のご批正をお待ちしています。

【引用文献】

- 1) 山本友和：「シミュレーションを取り入れた授業構成の理論と方法」、溝上泰編著「社会科教育実践学の構築」、p. 201, 2004, 明治図書。
- 2) 谷口和也・五十嵐馨：「多元的物語 (マルチ・ナラティブ) としての歴史授業の提案」、日本社会科教育学会編「社会科授業力の開発 小学校編」、p. 142, p. 145, 2008, 明治図書。
- 3) 井門正美・外池智・三洲龍大：『市町村合併 - 白神市名称問題 -』の授業 - 役割体験を活用した政治学習の取り組み -、前掲書 2)、p. 175。
- 4) 棚橋賢治：「社会科の授業診断 よい授業に潜む危うさ研究」、pp. 127-129, 2007, 明治図書。